

## 編集後記

読者の眼には、世界がどのように映っているだろうか。貧困・格差、移民・難民、戦争・紛争・テロ、宗教、人権、環境についてなど、問題を論じれば論じるほど、捉えれば捉えるほど、事態は深刻化しているようである。「いよいよ時代は転換期にある」だとか、「かつてないほどに世界は混迷を極めている」だとか言及されるが、私たちにどのような明日が待っているのだろうか。米国のドナルド・トランプ大統領は、日本、韓国、中国をはじめとして外交を積極的に展開し、APEC首脳会議でもその存在感を増しているように感じられる。北朝鮮に対する姿勢も明白になってきた。21世紀初頭の覇権をめぐる相克が佳境に入ってきたように見える。

本号は、このような世界を多彩で鋭い問題意識によって分析された論文などで構成されている。まずは、激動の時代を駆け抜けてきた石澤良昭博士のマグサイサイ賞受賞への藤田氏の祝辞からはじまる。本研究所によるグローバル・サウスのシリーズ『新自由主義下のアジア』における石澤氏の玉稿は、カンボジアを活写する貴重な記しである。岡野内論文は、21世紀における多国籍企業の資本の特徴と、その資本の動向をめぐる起源には植民地としての位置づけが在ると考察されている。さらに、これらの分析を通じ、グローバル正義論と植民地責任論の意味合いについて、深い洞察が加えられている。松下論文は、前号からのつづきとなっており、新自由主義とグローバル化によって様々な問題がもたらされてしまっているメキシコ社会の局面について、詳細かつ多角的に検討されている。米国の裏庭とされているメキシコの現状から、私たち（日本）が考えるべきところは数多いように思われる。そして、描き出すべき市民社会の姿とは…本稿で注目される。また、勝俣氏から、本研究所のグローバル・サウスのシリーズ『安定を模索するアフリカ』に対する書評をいただいた。「南」の世界の理解を勝俣氏の視座から惹きつけるものである。最後に言及されている点は、私も「そう思う」と強く頷く内容であった。秋林氏の論潮は、それこそ「いま」——朝鮮半島で、沖縄で何が問題なのかを、ご自身の経験かつトランスナショナル・フェミニスト平和運動を捉えて、リアリティあふれて述べられており、非常に興味深かった。山中氏の論潮は、EUと途上国との関係性を、砂糖の貿易から精緻に検証されたもので、いわば大国EUの姿勢を析出している点など大変に意義のある論考となっている。

2017年も、この『アジア・アフリカ研究』は第4号まで無事に発刊された。2018年の世界はどのように変わっていくだろうか。『アジア・アフリカ研究』でも、世界のあらゆるところで／片隅で生起する様々な問題に心を配り、世界のことを熱く語っていくことになるだろう。

(2017/10/25 大津健登)

### アジア・アフリカ研究

2017年 第57巻 第4号 (通巻426号)

2017年10月25日発行 機関購読料：年間15,000円

編集・発行人 文 京 洙

発行所 特定非営利活動法人  
アジア・アフリカ研究所

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-17-10

Tel&Fax: 03 (3946) 1479

E-mail: aaken@bz01.plala.or.jp

URL: <http://www.aaij.or.jp/>

印刷所 三和印刷(株)  
長野県長野市川中島町1822-1

本誌上で各論考の著者がその責任において述べた意見は、特定非営利活動法人（NPO法人）アジア・アフリカ研究所としての見解を表すものではありません。

The articles in *Quarterly Bulletin of Third World Studies* do not represent the views of The NPO Corporation Afro-Asian Institute of Japan (AAIJ). Responsibility for opinions expressed in them rests with their authors.